

愛知県(県域)

1 産地の概要

<対象品目> いちじく

<産地の現状・課題>

イチジク栽培において、栽培期間中の降雨による疫病の発生、収穫期間中の降雨による酵母腐敗病、黒かび病による腐敗果やそれに起因するショウジョウバエの発生で商品化率の低下が問題となっている。基本的には化学農薬散布で対応しているが、マイナー作物であるイチジクにおいては、化学農薬散布での対策に限界がある。総合的な防除対策として雨よけハウスやカサかけ栽培を推奨しているが、雨よけハウスは巻き上げによる開閉式の施設で機能性は高いが多額の投資を要する。一方、カサかけ栽培については、経費は安価であるが、カサの付けかけなど多大な労力がかかり、二の足を踏む生産者が多い。

2 検討体制

<愛知県組織と関係機関等の役割>

- ・農業革新支援センター(事業のコーディネート、技術指導、栽培マニュアル・産地戦略の取りまとめ)
- ・普及指導センター(農業者との調整、実証ほの運営管理、調査・技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略の検討)
- ・農業総合試験場(試験方法に関する助言、栽培マニュアル・産地戦略の助言)
- ・JAグループ(運営支援)
- ・農業者(実証ほ管理、技術の検証)

3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量の低減	病虫害管理	<取り入れる技術> 簡易雨よけ栽培導入による減化学農薬栽培
		<見込まれる効果> 殺菌剤使用量30%低減

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
収穫直前から収穫期間	<取り入れる技術> カサかけ栽培→簡易雨よけ栽培による省力化
	<見込まれる効果> 降雨対策技術に要する労働時間50%以上削減

4 活動内容(予定)

<活動内容>

多額の投資を要しない、簡易雨よけの導入によるイチジクの高品質果実生産技術及び減化学農薬栽培技術の確立と実証を行う。

- ・環境モニタリング
- ・収量性(商品果率)の確認
- ・農薬削減効果の確認
- ・労働時間など省力化効果の確認